



林間幼稚園經營の實際

和歌山幼稚園 中村楠雄

林間幼稚園の經營など、今更ら發表するまでも

ない事かも知れません。他の地方では既に多くの經驗を積まれてゐる幼稚園もある事と信じて居ります。けれどもこうした消息をお互に傳へ合ふ事も、決して徒事ではないと考へます。これは昨年夏の試みであります。若し本年よりかゝる施設をなさる方に取つて、多少の參考にもならばと思つて敢て發表致します。私共の縣では海濱學校の開設は毎年の事ですが、林間に於ける子供の教養施設は餘り例がなく、殊に幼稚園がこの種

の事をやつたなど云ふ事は、今までに全くなかつた事なのであります。

だから各方面の注意を引きました。縣市當局も非常に興味をもつて後援されました。各新聞紙は大なり小なり筆を揃へて書きたてました。殊に大阪毎日新聞の和歌山版は、寫真入り二日續きで、大なる紙面を割いて書かされたのであります。それ故林間幼稚園の事は、市内は申すまでもなく、縣下全般に渡つてよく知れ渡り、又中々好評であつたのであります。特に多數の幼児が全く無心にねむつてゐる寫真などを見て、思はず泣かされた

餘りに可愛ゆくてなどと申された方もまゝありました。

二

さて私達はなせ昨夏から此様な事を始めたかと申しますと、第一教育上殊に幼児教育上最も留意すべきは身體の健全と云ふ事である、即ち身體の健全はあらゆる人間能力の發生、進展の原始的根源であるとの信念からであります。然るに私共の爲て來た仕事はかへつて第二義的な（此の幼稚園時期にとりて）智的取扱ひの方へどうも偏してゐる嫌ひがあつた、これを打開する第一歩としたいと云ふ考からであります。

第二には都市の子供の生活と云ふ事を考へて見たいと思ひます。動きたくてたまらぬ時代を、あばれたくてたまらぬ時期を、せまくるしい場所で、多くは室内で、よい空氣にも恵まれず、十分な日光に觸れる事も出來ずに、極めて不自由な生活

をしてゐる現状ではありませんか。彼等は平常幼稚園に來る事によつてでも、どれ程幸福だか分りません。ましてに夏季於ける彼等の生活を思ひやつた時、本當にかはいさうでたまりません。暑さに喘ぎながら、汗にしたる體の置場に苦しみつゝ、わづかに……塵埃に満ちたむし暑い室内に體を横たへたり、しめつばい露路の奥に座して土をなぶる……位の事です。こうした子供等などうして健康が恵まれませう。これを救つてやりたい、少しの間でもよいから、よい生活をさせてやり度い、と云ふのがまたこれを催さしめた動機の一つなのであります。

第三に夏季に於ける特別な保育施設を仕たいと云ふ事は、職員の間にも、父兄の間にも、最早長い間の念願であつた事であります。けれども色々な事情が伴なつて、實行の機を得なかつたのであります。が、昨夏に至つて全く機が熟して、遂に實

行に入つたわけであります。

三

愈々やると決してからも、幾回か職員の間合が催されて、各種の研究相談があつたり、準備をしたり致しました。そして兎も角左の様な印刷物を配布して、林間幼稚園児の募集を致しました。

林間幼稚園設置方案

- 一、收容児童 希望者だけを收容するつもりです
- 二、期間及時刻 七月二十一日より向ふ二週間
(雨の日は休み) 午前八時半より午後三時半まで

□本校は夏期休業は七月二十一日頃からになるかも知れませんが以上のように定めました。而して七月二十一日から休みにならぬとしても、この頃には短縮期間と申して十時半頃に幼稚園は終りますから、終り次第林間幼稚園へ入園の子供だけは

當幼稚園から職員引卒の上林間幼稚園の場所へつれて参ります。従つて林間幼稚園へ入園の子供だけはお辨當を持参する事になります。

- 三、場所 和歌山縣師範學校裏山一帯
- 四、設備

- 1 曇り日などに休みか、あるのか氣づかはれる様な時には師範女子部の入口まで来て下さい。休みでない時は緑旗をたてます。
- 2 よい松の木影がありますが必要に應じテンとも張ります。
- 3 便所も師範のものを借る筈になつてゐますが必要に應じ作ります。
- 4 臨時の雨、午睡等の爲めに演武場を借用する事になつてゐます。
- 5 洗面場、食堂等も借用するつもりです。
- 6 湯茶呑場も作ります。
- 7 ゴザ類を用意します。

8 諸運動具、遊戯具、繪本、其他。

9 身體検査用具、衛生器具。

五、關係職員 三戸園醫指揮の許に看護婦並職員全部。

六、日 課

午前八時半集合（或は十時半）遙拜、遊戯唱

歌、自由遊戯、空氣浴、日光浴（輕度）砂遊、

午睡、深呼吸、繪、等適當に三時半解散歸宅

七、食 事 辨當持參（折箱詰）

八、間 食 午前牛乳一合、午後菓子若くは果物。

九、兒童の携帶品

辨當、湯のみ、毛布一枚、マクラ一個、手拭、

紙ハサミ。

十、費用 兒童一人分金參圓也。

十一、備考

1 申込と同時に金參圓もお納め下さい。

2 林間幼稚園入園者の保護者會を追て開きま

す。其の時詳細説明します。

3 毛布は午睡に使用します。あり合せのもの

綿製のもので結構です。（毛布は當方にて

御預り致します）

4 人數餘り少ない時は、やめるかも知れませ

ん。

四

何を申しましたも、私共の縣、私共の市で始めての事でありますから、果して父兄にどれだけの理解があり、何十人の應募があるか全く見當がつかしません。一日、二日と日はたちましたが未だ餘り澤山申込はありません。でも最後の結果は豫想外の好結果で、まづ五十人位であらうかと思つてゐたのに、それを突破すること實に三十人、計八十人の申込がありました。

私共は本當に元氣づきました。そして確に實行するとの決心も定め、次で着々と準備を進めて行

きました。

其のうちに市教育會、和歌山幼稚園兒保護者同志會等からも、それ〴〵寄附後援があり金錢上の心配も幾分氣樂になつて參りました。

そして七月二十日には人夫を一名やとふと共に職員全部、同志會役員一名、開催地である師範裏山に出動して、天幕をはるとか、便所を作るとか其他必要な準備を致しました。

一方師範學校では校長、教頭、主事すべて非常な好意を持たれて當方の要求する場所、物品等は總て心よく貸與されたのであります。殊に感激したのは、午睡の爲めに私共の方で演武場を借り入れて居りましたが、丁度其の頃は京都の武徳殿へ出場する選手達の練習最中でありましたのにもかゝらず、選手達や先生方が常に時間を繰り合はせれるばかりでなく、練習に正にかゝらうとしてゐる時でも、子供達が這入つて行くと中止して下

さると云ふ風であつた事であります。それで萬事が都合よく運び、子供達も安心して眠れたのであります。

五

愈々開始の日となりました。設置方案には二十一日頃から休みになるかも知れぬと書いておりましたが、――そんな話はあつたのですが――とうとう二十一日から休みにするとの指令に接しましたので、幼稚園の方がすんでから、林間幼稚園へ來る子供だけを引きつれて師範の裏山へ來る事にしました。さて又一つ困つた事が起りました。それは所謂小さい子供の事ですから、自分のお家が師範から近くにあるのに幼稚園からであつたら一人で歸るけれども、師範からは歸り得ないと云ふ子供のある事です。

それでまたもう一度師範からいつもの幼稚園へ引きつれる歸る事にしました。これはなんでもな

れい事の様ですけども、俵母の人達を大變疲勞させました。それは午後三時半まゝもと云ふ長い間子供を預る事であり、暑さは暑し、常の幼稚園より一層注意を配らねばならぬし、本當に子供の爲めとは言ひながら氣の毒な程大變な骨折りでありました。

第一日は不馴の爲も手間取れて困りもしたが、二日目からは順序よく運び、先づ大體に於て成功であつたかの様に考へて居ります。日々の狀況を日誌をたどつて詳記するなら、更らに參考になるかも知れぬと思ひますが、今はこれ位に止めて、よろしかつたと思はれる點や、注意せねばならぬと考へる筋々やを別に列舉して見る事に致します。

六

よかつたと思はれる點。

(1) 環境は幼兒の生活に最も應はしかつた。

見渡す限り白い一面の砂原で、その上に徳川時代幾百年の歴史を語る老松が彬々として生ひ繁つてゐます。しかし土地は割合高く、北には老樹鬱蒼たる中より、巍然として天に聳ゆる和歌山城を仰ぎ、東は市の東半より遙かに日前宮附近、紀の川平野、和泉山脈の連峯を望みます。西には近く青岸荒濱、水軒等の海をひかへ、海風は終日吾等の老松に戯むれて來ます。南には師範の廣き運動場、さては市の上水道貯水池の青々として湛へたるあり、これを廻らすに、やはり白い砂と緑の松とをもつてしてゐます。環境は斯の如く變化に富み、氣持ちがよろしかつたのであります。こゝで子供等は終日極めて自由に、砂を掘り、トンボを追ひ、繪をかき、お話を聞き、お遊戯をしおちんを食べて遊んだのであります。時に

飛行機の飛來する事もあつたし、遙かに汽車や、汽船や、軍艦の通るのを眺めて限りもなく喜んだ事もあります。

だから全期間中を通じて子供から歸りを請求した事は一回もありません。三時半、四時になつて「サア歸る御支度しませう」と言へば、「もう歸るの!!!」と言つて如何にも物足らなささうな顔をします。

平素の保育の上にも考へて見ねばならぬ何かとこの中にも含まれてゐる様にも考へられるではありませんか。

(2) よく午睡させる事は出來た。

夏季の事ではあり、プログラムの中には非午睡と云ふ事を入れねばならぬと云ふ意見で實行する事にしました。然し午睡は中々成功しないかも知れぬと云ふので随分心配してゐました。兎も角最初樂器でねむりに

つかせ、また樂器で起すと云ふ方法でやる事に定め愈々睡眠のスタートを切つて見ました。さてやつて見ると心配は杞憂でありました。案ずるより生むが安かつたのであります。オルガンの低い音色が終る頃には大方の子供は美くしい夢のお國を訪づれてゐました。その無邪氣な神々しい姿には涙をこぼす人さへありました。樂器が終つても未だ寝つかれぬ子供は、私共はそばへ行つてしばらく脊をたいてやりますと、大抵は眠つてしまひました。それでも寝られぬ子供と云ふのは、四五名位しかありません。それらの子供には繪本や玩具を興へて食後の安靜だけを取らせる様に致しました。そして私共は面白い結果の一つを發見しました。それは昔の諺にあつた通り「寝る子は太子」と云ふ事でありました。不思議に

も體重の多く増した子供の大多数はよく午睡のする子供でありました。

(3) 嫌ひな牛乳も飲ませる事が出来た。

牛乳の嫌ひな子供もあるだらうとの見込で前もつて調査して置たのであります。しかし兎も角一様に飲ませる事にし、飲み得ないと前もつて承知してゐる子供には、五勺瓶を與へる手心をした上、尙幼稚園のお乳は大變おいしいのだからと云ふ言葉だけを添へたのであります。

所がさうした場所で走り廻はり、水分を要求してゐたせいもありませう「あゝ幼稚園のお乳はおいしいなあ」と言つて、何の苦もなささうにグイ／＼と飲むではありませんか。

中にはコーヒやお砂糖を少しづゝ入れてやつた子供もあつた様ですが、終りまでに

牛乳を飲み得ないと云ふ子供は、殆どなくなつたやうでありました。

これに就て考へて見ても、子供が好きだとか、嫌ひだとか云ふのも、多くは氣儘からだとも言へませう。實際間食など過ぎるのは大きな原因ぢやないかと考へます。

(4) 又これからひいて考へるのに、平常でも一定の食費をとつて、晝食だけは是非幼稚園から出す様にしたと思はれます。そして幼稚園では眞剣に幼児の食物を研究調査して、一方幼児に給食すると共に、一面家庭の指導を圖り、以て幼児の保健の爲に一層の進展を期さねばならぬと考へます。

強い子供にした。

俗に「寝起きたからぐづるのですよ」などと云ふ通り、この年齢の子供は目覺めた時、しばらく何と云ふ事なしに泣くもの

です。面白かつたのは、オルガンの音に、或はやさしい先生のお聲とフト目覺めた瞬間、ヤアと泣きかけてヒョットお友達の元氣な顔が目について、「あゝ、こゝは幼稚園だつた、僕きまりが悪るい。」と言はんばかりに、泣き顔から急に笑顔にかはつていつたりする事でした。

おうちであつたら無理を言ひたい所も、泣きたい所も、すべて壓へて、汗に汚れた顔や體を冷たいお水で先生に拭いて貰つて嬉々としてお遊びに出ます。

大人でさへ暑さに弱る時を、小さな人達は一日一日、心も體も強くなつていきました。

(5) 家庭での間食を少なくする習慣を作つた。

子供の不健康になる第一のものは、間食が過ぎて定食が不十分になることだ、と考

へられます。父兄の中には「宅の小供は間食ばかりで御飲をサツバリ頂きません」と申す人さへあります。實際都市の子供でしたら、間食が多くて普通の食事が少ない様なのは多いのでないか、と考へられます。

それで幼稚園で間食を與へるこの機會を利用して、「幼稚園で頂いたでせうから」と云ふ様な風にして、なるべく節する様に仕向けるやうにと父兄會（林間幼稚園の）の時に保護者の人達に申上げて置きました。又子供にも「幼稚園でおちんをあげますからおうちでは餘り頂かぬやうに」と申聞けました。

さうすると子供も注意をするし、親達もひかへるし、これも都合よくいつて、後に林間幼稚園々兒狀況調査をしたとき、多數の保護者から喜びの報告を聞いたのであり

ました。

(6) 御飯を澤山頂ける子供にした。

空氣のよい所で、爽やかな氣分で、伸びくとして活潑に走り廻つたならキツトおながすくだらうと考へてゐましたから、林間幼稚園兒の父兄會のとき前もつて保護者達に「何時も幼稚園へ持つてよこされる様なお辨當だつたら、必らず不足しませうから、折箱でもよろしいからなるべく大形のものに入れてやつて頂きたい」と申して置ました。

果して其の通りでありました。場所は前述の通り申分はなし、間食は少ないし、本當に氣持よくおなかぐすぐらしいのです。「あんなに澤山頂く事出来ませうか」と私共がかへつて心配する程持つて來てゐますのに、誰れも彼れもペロリ、ペロリと平らげ

(7)

てしまひます。朝などサツパリ食べなかつた子供でもよく頂くやうになつたとか、お夕飯なども一段と量が増したとか云ふ様な喜びをも澤山聞く事が出来ました。

體重をみんな増す事が出来た。醫師の意見に従つて、開設の一週間前に一回と、開設中三回と、閉園後一週日目に一回、都合四回の身體検査を行なつたのであります。

今試みに最初と最後の體重だけを取つて比較して見ますのに、八十名中體重の増加しなかつたのはわづかに七名であります。それを又詳細にしらべて見ると、一名はチブスになつて初めから一日も出席しなかつたのであり、他の六名は色々の事故の爲め出席三四日以内のもののみであります。故に眞面目に出席したものに體重の増加せぬ

者は一名もなしと云ふ次第であります。普通此頃は誰れでも暑さにまけて、體重でも減少する頃であるのに、子供達の目方はすんずん増したのであります。これによつても此の種の施設は如何によろしいかと云ふ事は明らかであります。今増加に對する表を簡單に示して見ませう。

體重増加表（七十三名中）

五十匁未満の者	一四
五十匁以上 百匁未満の者	二三
百匁以上 二百匁未満の者	二六
二百匁以上 三百匁未満の者	一〇

そして最高二百七十匁最下五匁の増加である事を附言します。

注意せねばならぬと思はれる點

- (1) 寝られぬ子供を氣持ちよく遊ばせる工夫を要すること。

子供の身體の都合や、家庭に於ける習慣などから、どうしても午睡の出來ぬ子供が一日に四五名は出來ました。この子供らを兎も角繪本を與へたり玩具を與へたりしつゝ、一定の時間だけは他の子供と等しく體を横たへさせたのでありましたが、これが非常に苦痛であつたらしく、爲めに林間の方へ來るのを嫌つた子供さへありましたのと、又それらの子供がどうかすると聲を出して他の子供の睡眠の邪魔になつたりしたので、これらはしばらく安靜をとらせながら、外へ出してやるやうにする方がよかつたのでないかと考へます。

- (2) 今一人人夫を増すこと。

湯茶の準備、後片附等を小使交代でやらせ、職員も手つたふやうにしたが、是は水の不便な所であつたし、暑い頃で心も體も疲

勞しやすい時でもあつたし、兎に角非常に過勞であつたと考へます。是非今年からは一人多く人夫を雇ふ必要があると思つて居ります。(女の小使一名づゝ交代であつた)

七

林間幼稚園で入用であつた品々を概略あげて見ます。

出席簿	五	テーブル	一
身體検査簿	一	甘酒臺	一
日誌	一	テーブル掛	一
寒暖計	一	旗	七
椅子	六	やかん	一〇
茶碗	二〇	洗面器	二
湯入	二	天幕	一式
バケツ	上 一	鈴	一
	下 三	時計	一
ゴザ	二〇	湯わかし釜	二

おぼん	三	筆洗	五
ニナイ(水運及び用)	一	荷ゴミ箱	二
ゴミハサミ	五	ゴムボール(大)	六
綱(綱引用)	二	組立色板	三一
輪	四二	積木(バラ)	一箱
繪本	二〇	砂ごて	一〇
粘土板	二五	シングルベルス	四
石人形(籠入)	一	急救箱	一

(大正十五、五、一四、奈良の旅舎にて)

(參観者櫃
草盆代り)